

福 井 県 医 師 会

だより

第704号 令和2年(2020)2月



そり滑り (F50)

鯖江市 林 正則

表紙写真説明：そり滑り (F50)

鯖江市 林 正則

1984年2月 雁が原スキー場で子供たちとそり滑りをして楽しみました。

1984年 絵画教室の先生に勧められて、亜細亜現代美術展に初めて出展したところ入選しました。その年の秋に東京の上野の森美術館に展示されましたので、家族そろって遊びに行きました。長男と次女は現在、腎臓内科医として活躍しています。

## 醫 縫 録

# 福井市医師会長就任の挨拶

福井市医師会長 柏原謙悟



令和元年6月6日の福井市医師会総会にて会長に就任しました。以前にも「県の理事になった方に順番で醫縫録として書いていただいている」とのことで原稿を提出した記憶がありますが、先頭に登場するのは2回目のことでもあります。勤務医時代（B会員）の福井市医師会理事3年間、間をおいてA会員として市医師会理事、副会長と6年（その間県の理事4年間）、現在10年目の医師会活動になります。副会長として安川前会長の多忙さを横目に見ながらできれば避けたい仕事でした。周りからの圧力もあり、半年前頃には抵抗する気もなくなり、会長に就任してしまったというのが正直なところです。就任の挨拶には今後の抱負とか将来のビジョンとか責任感とかを表明すべきところですが、目先のことの仕事をこなすのが精一杯で余裕がありません。池端会長が所信表明で Act now for the future と掲げましたが、私は Act now for the now という状態です。昔、脳神経外科の医局に入局した時の先輩の言葉を思い出しました。「緊急なことがしばしば起こる現場では Spinal animal（脊髄動物）たれ。考える前に体を動かせ。動かしながら考えろ。」40年以上前の話です。いまでは少し考えて行動しますので心配しないで下さい。6月に就任して以来、挨拶回り、行政との打ち合わせ、諸会議で時間が取られました。安川前執行部（私も参加していましたが）からの宿題の一つに福井市医師会立看護専門学校の問題がありました。7月になり、看護学校全職員と面談を行いました。問題点が多々ありました。教育理念の違いから3名の方が退職されました。福井市医師会の福井市医師会による福井市医師会のための学校をめざし、再建中です。国試対策に医師会員有志が参加して、約30名の学生相手に国試対策勉強会を10月22日、11月23日と2回行いました。3年間で卒業していただき、卒業生が福井市、少なくとも福井県の医療機関に多

数就職できるように教職員とともに努力していきます。

次いで休日急患センターの問題です。県の事業であることも急患センターが福井市に委託され、福井市医師会が管理する、そこに県の小児科医会が働く、その売り上げが半端でないという複雑な構図になっていました。行政、県小児科医会との話し合いを何度か行い、来年度からは休日急患センターと分離運営されることになりました。地域医療構想調整会議、福井市地域包括ケア推進会議、福井市休日急患センター運営委員会等々行政との話し合いも多々あります。今回より、勤務医の代表者として病院長の先生に副会長（県立病院橋爪院長）として執行部に参加していただいています。病診連携のみならず、病院、勤務医の抱える問題などを話し合える環境は福井市医師会の活動に大きく貢献していただいています。福井市医師会では理事や役職のなり手がいない状態でブロック長が苦勞されています。それぞれが医師という仕事をこなしながらの活動であって、その本来の活動が妨げられたら困ります。無理なくこなせる活動にし、またやりがいも出てくれば参加していただける会員も増えるのではないかと考えています。

福井市医師会の理念として、高い倫理観、自己研鑽、社会貢献の3つを掲げています。福井県の医療体制を考えると医師数、大病院の数など福井市に集中している傾向があります。福井県民が医療、介護に関して安心して暮らせるように、福井県医師会の皆様方と協力して医療のさらなる充実、発展に努めたいと考えています。最後に Act now for the near future を目指します。